

# 創学舎ニユース

No.249

## 終わってしまった夏は

### つりもどせない

受験生の夏休み。七月二十日には、遠大な計画をたて、充実したものにしようと思っていたのに……。途中で何回か計画のたて直しをしたのに……。予定の半分もやれていない。どうしよう……。

後悔と自己嫌悪で終わる夏。そして、その気持ちをひきずったまま九月のスタート。悲しいね。つらいね。もっとも、きみだけではない。そんな受験生が、周りにもいっぱいいる。さて、どうしようか。



勿論、きみは気を取り直して再びがんばり始めるだろう。それは確実だ。しかし、きみはきつと分かってはいないはずだが、また後悔と自己嫌悪を味わうことも確実だ。しかし今度は、徹底的にきみを痛めつける。受験までの残り時間が少なくなっているからだ。

一体、人生に於いてムダなことはない。回り道をして、失敗しても、きみが年令に応じた成長をしていけば、決してムダにはならない。後悔や自己嫌悪を何回か味わっても、そこから、現実を知り、自分の弱さを知り、次の試みのときの工夫をするというように進んでいければよいのだから。ただ、ある事柄に於いて、回り道や失敗をしないですむとしたら、それはその方がよい。何故なら、人生には、山程難問が待ちうけていて、好むと好まざるに関わらず回り道も失敗も重ねてしまうのだから、一

つでも減らせば、その方がよいのだ。

さて、今、後悔や自己嫌悪を味わい、またこの冬にも同じ気持ちをもっと強く味わうはずのきみ。再度いう。どうするんだ。ここが正念場である。再び決意して動き出す前に、よくよく考えることだ。そうすることが、また次に行き詰まったときに立ち上がる力を生んでくれるからだ。

ということを確認。とにかく続けること。何故、後悔するかというと、勉強が中断するからだ。中断することなく続けられれば、多少やり方にまづい所があっても、伸びていく。(また、やる過程で、そのやり方も、また学習能力も改善向上していくものなのだ。)続ける人はとにかくすごい。いつの間にか、いろんなものを仕上げていく。続けることを目標に勉強することだ。

点数が伸びるまでには時間がかかる。ある科目を適切なやり方で勉強すれば、力は着実についていく。ただ、模試は、その科目の総合的な力を見るもので、どこがでてくるかは分らない。解答を出すにあたって、複数の道具を使うことも多い。だから、力については、うる覚えの部分が多ければ、点数は、勉強を始める前とほとんど変わらないかったりする。それでもあきらめずにやること。伸びるまでのある程度の時間。これに耐えることが必要だ。

学習のリズムが必要。一日だけがんばっても次の日にやらなかったらアウト!その日に思いついた科目をやっていると、必ず長期間やらない科目が出てきてアウト!英数は毎日やるときめて、残りの科目は一日おきとか、とにかくリズムを作ってそれを守る。ただし、国立大学志望の人は、理系の場合、「国社をいつからやるのか」、

文系の場合、「理科をいつやるか」がポイントになる。他の主要科目が遅れているなら、十一月まで開始を遅らせることも必要。

過去問をやる時間を確保する。高校大学受験に限らず、司法試験から医者国家試験、更には運転免許の試験まで、過去問の研究は大切だ。何がどう出ているか。そして、どう解けばいいか。自分が苦手な問題分野は何か。そうしたことは、全て過去問があればこそ分かることだ。九月から、遅くとも十月から、一週に一年分ずつ英数国は過去問を解いていく作業を怠らさずに入れたい。

受験生は、(勿論、大学受験生も)、秋から冬にかけて大きく伸びる。夏までの勉強は、いわば知識を入れる勉強。秋からは、それをアウトプットする勉強。夏までに入れた知識を忘れることなく反復しつつ、問題を解く作業を重ねていけば、模試などの点が飛躍的に上がる。

志望校で安易な妥協はしない。高校受験でもある程度いえることだが、大学受験では、いくつの大学でも受験可能である。現役生で7~8校というのも珍しくない。だから、やれる所までやってそれから最終決定するぐらいの気持ちでよい。ただし、勉強もせずに、安易なことを考えて高望みするのは、これを「バカ」という。

同じことをやっているのに、伸びる人と伸びない人がいるがその違いは明確に存在しているのだ。余り考えずにただくり返すだけの機械的勉強でもやらないよりは、つとましのだが、考えてやっている人とは大きな差がついてしまう。残念ながら、そのことを指摘してくれる教師は少ない。また生徒も受験勉強の経験をそう何度もできるわけではないから、他の人と自分の違い

を「出来る出来ない」以上には分析することとはかなわない。「出来る人」に尋ねても、使っている参考書や勉強量を教えてもらえる程度だろう。だから、私がいつてやるのだが、伸びる人は、とにかく考える。調べ。答がでなくてもあきらめない。質問する。細かいことにも、望ましい成果につながるようなこだわりかたをする。例えば、不明の単語があつたら、必ず調べたり、一方でその意味を前後からあてようとする。一日だけでは、差は生まれませんが、一ヶ月もたつと、考える人と機械的作業の人とは大きな差がつくこととなる。自分はどうなのか、よくよく考えてみることだ。

以上、思いつくことを書いてみた。人が一生懸命やって無駄なことはない。自分の願望をしっかりとみつめ、精一杯の力を出してもらいたい。因みに私たちは、先に生まれ生きた者として、また自らも受験を経験した者として、きみ達の味方であり、同士である。きみ達が前に進みたいという気持ちをもつ限り、全力で応援をする。もし、行き詰まるようなことがあればいつでも相談してほしい。

## クラシックへの誘い

いぞな

(小林)

先のオリンピックで荒川静香選手がメダルを獲得する演技を披露していた時、バックで流されていた音楽が話題になっていた。イタリアのプッチーニが作曲したオペラ「トゥーランドット」。外見の美しさとは裏腹に、愛を知らないために冷酷非情な性格を持つトゥーランドット姫と、彼女の心をとかそうと努力するカラフ王子との物語で、まさにメロドラマの定番といったストーリーだが、舞台設定が昔々の中国である

ため、音楽はプッチーニ特有の甘いメロデーに加え、彼が長崎を舞台にして書いたオペラ「蝶々夫人」にも増して東洋趣味が炸裂して面白い。いたるところで銅鑼が鳴り、東洋風の音階が顔を出し、何故だか「タ焼け小焼け」そっくりのメロデーをオーケストラが大音量で鳴らす場面さえある。ちなみに荒川選手がイナバウアーを見せた時に流れていたのが「誰も寝てはならぬ」という全編を通じて最も有名な場面の曲である。

クラシック音楽は面白い。私は、高校生から吹奏楽を始めたのだが、オーボエの先輩が、ロシアのボロディンが作曲した「ダツタン人の踊り」という曲の中の有名なメロデーを演奏したときのことは忘れられない。衝撃的だった。こんな美しい音楽があるのか、と。それまでに、歌謡曲やロックなどいろんな音楽を聴いてきたが、それらとは全く違う、心をしめつけるような息の長い旋律だった。クラシックはまさに音楽の源流と呼ぶべく、現在ある音楽の、全ての要素を耳にすることができる。音楽は多様だし、静寂を思わせる弱奏から、ホルンが揺さぶられるような大音響までも楽しめる。記譜法という名の共通言語によってあらゆる国の人々が作品を書いているが、やはりお国柄がにじみでていて面白い。平原綾香さんの「ジュピター」という歌はイギリスのホルストが書いた「木星」のメロデーを使っているが、他にもエルガーの「威風堂々」など、イギリスの曲には大英帝国への思慕ともとれるような勇壮で美しい旋律が多い。フランスの曲は大変優雅で洗練された感じがするし、ロシアの曲は叙

情的ではあるがどこかほの暗い。

我が国を代表する指揮者の佐渡裕氏は、ロックばかり聴いていた少年時代に、ある音楽と出会って指揮者を目指すようになった。その曲こそロシアの作曲家ストラヴィンスキーによるバレエ音楽「春の祭典」である。書かれたのは一九一一年(明治四十四年!)。発表当時はあまりの斬新さに大変な賛否両論が起こった。一応ロシア民謡を引用したメロデーがあり、時にそれが美しくもあるが、それをしのぐこの曲の魅力は、現代のロックを思わせるリズムの洪水と、多彩な音色と、爆発的な大音響である。

様々な楽器が用いられ、通常六〇人程度で編成されるオーケストラがこの曲では一〇〇人ほどにふくれあがる。曲の長さは三〇分程だが、あつという間に、人々は惹きこまれていく。この音楽は人間の持つ原始的な部分を刺激するのだ。デイズー映画「フアンタジア」で、「春の祭典」が地球の誕生からジュラ紀の最後までを描く場面で使われているのもうなずける話だ。ライブで聴くともつとすごい。クラシックが古く退屈な音楽という先入観は跡形もなく吹っ飛ばさよう。



今年にはモーツァルト生誕二五〇周年でもある。新世界へ足を踏み入れてはいかがですか。(関)

## 親子の関係 (58)

一年半ぶりの再開。前回は、大阪市役所の不祥事の話であった。その件を切り口にして「頭のよさ」について述べたと思う。今回は、その「頭のよさ」を改めて考察してみた。

「あの人は頭がいい。」とか「頭がよくなりたい。」とか生徒はよくいう。大人だつて「おたくのお子さんは頭がいいから。」などと使う。塾に通う生徒は、当然、頭をよくしたいと思っているし、親も自分の子供にそうなつてほしいはずだ。教える側の私達の仕事でいえば、子供達の頭をよくしてあげるのが役目ということになるだろう。

だのである。同期の友人達の話によれば、「あいつはすごい。天才ですよ。」となる。いずれ、その分野で日本を代表する学者となる可能性は高い。

そこで、まず勉強に関する面での頭の良さを定義してみたい。

これは、極めて特殊な例である。今まで何千人という生徒をみてきた中でも、おそらくこの生徒一人だけかもしれない。ただ、私達は彼の事例から多くのことに気付かされ、反省させられた。人間は本当に奥が深いということ。人を、その才能を見抜くのは難しいということ。自分の経験は、そしてその経験から得たデータには限界があるということ。そして、これが一番重要なことだが、いわゆる勉強ができるようになるためには、学習習慣が身につけていることと、そのことに価値をおいていることの2つが必要であること。(以下次号) (小林)

知識を得点に結びつける力があることetc. 知識を組み合わせられること。知識を入れる方法を持つていること。こんな所であろうか。をより多く備えた人が、好成绩をとり受験でいけば成功者となるのである。勿論、受験では、運だとか精神面での安定など、成功するうえで様々な要素はからんでくる。いずれにしても、学校での成績がよく、難関校に合格する人は頭がよいといわれるのは間違いない。

今号では教育名言紹介はお休みです。

## 創学舎の本

受験生は読め! (合格のヒケツがココにある) 勉強法・精神面のケアーなどについて、創学舎講師陣が書いたものです。

非売品です。希望者には無料で差し上げます。

愛の壁 お父さんお母さんあなたの愛は子供に届いていますか (著者 小林 憲右)

創学舎ニュースの編集責任者 小林が二十年間書き続けてきた記事の中から抜粋・加筆したものです。

浅野書店・ブックス鈴木・新星堂他全国書店で発売中。

卒業や転校等で創学舎を離れる方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。在籍していた教室までご連絡下さい。